

## 令和3年度新型コロナウイルス感染症対策ロボット実装事業に係る施設情報

### 1 施設概要

施設名	医療法人沖縄徳洲会 湘南鎌倉総合病院		
所在地	〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370 番 1		
開設年月日	1988 年 11 月 1 日	従業員数	1,738 人
種別	医療施設	施設面積	16,828.94 m <sup>2</sup>

### 2 課題認識及び意欲について

#### (1) 施設における業務上の課題認識

- ・新型コロナウイルス感染拡大下における医療提供を行う側の課題としては、医療従事者ならびにその他医療機関に従事する職員が感染媒体とならないこと、医療従事者が本来業務の医療に専念できる環境整備・サポートの変革が必要。
- ・さらに、医療業界における「働き方改革」に関連して、2024年には医師においても勤怠管理ならびに残業時間の管理が必須要件となる。

#### (2) ロボット実装に向けた意欲

課題への取り組みのひとつの考え方に、医療と産業の融合が必須であると考え。新型コロナウイルス感染拡大を機会に、産業で有用性の高い仕組み（ROBOTならびにIT/IoTの取り組み）を促進することで、人が行っていた業務を自動化さらには無人化することで、感染拡大防止ならびに医療従事者の負担軽減に大きく寄与できると考える。

現在、県より委託を受け取り組んでいる「新型コロナウイルス専用医療施設」での、ROBOTならびにIT/IoTの仕組みを、平時の医療機関でも今後取り入れていくことで課題の解決に繋がっていきたいと考えている。

この取組の結果、当院が医療業界においてのショールームとなるべく、「医療＝産業」の発展に貢献したい。

### 3 実証可能エリア

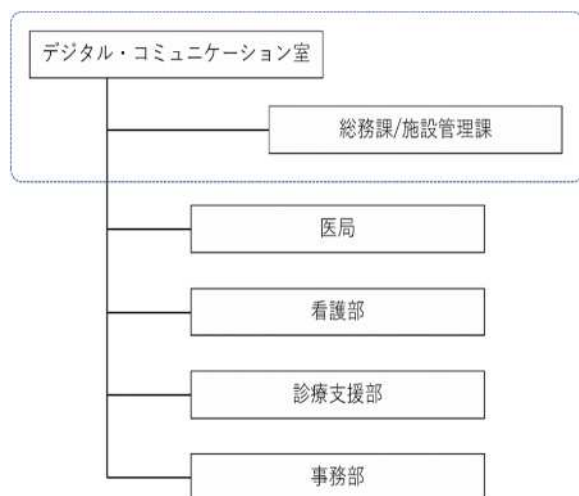
- ・湘南鎌倉総合病院 1階～4階 外来エリア おおよそ 1,600 m<sup>2</sup>
- ・湘南鎌倉総合病院 病棟エリア おおよそ 1,900 m<sup>2</sup>
- ・(時間) 昼夜問わず可能
- ・(段差) バリアフリー構造
- ・(通信環境) Wi-Fi 環境を整備済み
- ・(その他) ロボットとエレベーターの連携可能

※フロアマップ図は、<https://www.skgh.jp/customer/floormap/>

#### 4 取り組みを希望する事例

ロボット等	内容	感染症対策の効果
清掃ロボット	外来や病棟の清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触者の減員</li> <li>・病棟など患者エリアへのウイルス持ち込みリスクの軽減</li> </ul>
サポート・モビリティ	物流（配膳）や院内案内誘導（車いすなど）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触者の減員</li> <li>・病棟ならびに入院患者への感染リスクの軽減</li> </ul>
回診ロボット	服薬栄養指導（配薬・配膳）や入院患者食事介助の際のコミュニケーションに使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触者の減員</li> <li>・飛沫感染の軽減</li> </ul>
来院仕分けロボットまたはI o T機器	来院患者の仕分け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来院患者混雑を緩和することによるクラスター対策</li> </ul>
コミュニケーションロボットまたはI o T機器	会議・面談時に使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面式での会議開催緩和による接触者の減員、クラスター対策</li> </ul>
サポートスーツ	患者の移動時などの介助に使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接触感染の軽減</li> <li>・防護服下での患者移動時の負担軽減</li> </ul>

#### 5 実施体制



※沖縄徳洲会グループでは、ROBOT・AI等の導入により、ひとりでも多くの職員を単純作業から解放し、患者さんに寄り添い、人の温もりを伝える仕事に就いてもらうため、令和2年8月にAIホスピタル部門を設立する計画を表明し、実証実験の場（ショーケース）として10月に当院にデジタル・コミュニケーション室を設立。

デジタル・コミュニケーション室を中心として、医局、看護部、診療支援部、事務部が連携し、当院及びグループ全体への実装に取り組む。

#### 6 主な実績

ロボット名	活用内容	活用時期
運搬ロボット	検査検体、注射液等の薬剤配送業務	R 3. 3月
診療補助ロボット	医師の診療補助（回診業務）、看護師業務の補助業務上のコミュニケーション	R 2. 5月～12月
アンプルピッカー	医薬品自動ピッキングシステム	H22. 9月
案内ロボット	治療・検査説明の補助業務、院内案内業務、病院情報の発信業務	H30. 2月

※その他、医療者感染リスクを可能な限り避けるためI o Tツールを活用し、実証実験を実施